

あ が つ ま

『エルニーニョ』

今年の冬は、例年よりあたたかい気が
しませんか？気象庁によりますと、今年
は「エルニーニョ現象」が続いている影
響で、暖冬傾向にあるそうです。「エル
ニーニョ現象」というのは、南米・ペル
ー沖の海面水温が平年より高くなる現
象です。それが長期間続くことよって、
太平洋域の東風が弱まり、西に吹き寄せ
られていた暖水が広がって、海面水温を
上昇させています。「エルニーニョ」と
いう言葉は、スペイン語で「The Child」
(こども)のことを意味しますが、定冠
詞があり、名詞も大文字で書き始めてい
ることから、こども一般のことではなく、
「幼子イエス・キリスト」を指していま
す。カトリック信者であるペルーの漁民
が、毎年クリスマス頃に現われる小規模
な暖流のことを「エルニーニョ」と呼ん
でいたことに起源があります。しかしこ
の「エルニーニョ」、すべての人に喜び
をもたらす訳ではありません。ペルーの
ある地域では、カツオの群れが回遊して
きて豊漁になりますが、ある国では、異
常気象で大型の台風が発生したり、旱魃^{かんばつ}
が起こったりします。日本でも、今年の
暖冬の影響で、イチゴが早熟となり、需

牧師 望月 達朗

要の多いクリスマスの時期には出荷数
が少なくなってしまう農家があるよう
です。「エルニーニョ」(幼子イエス)
の誕生が困りものというのは、困りもの
です。

しかし、よく考えると、イエス・キリ
スト誕生の知らせは、貧しい羊飼いや異
端扱いされていた占星術の学者達には
喜びとなりましたが、ヘロデ王や都エル
サレムの人々にとっては不安を与える
困りものでありました(マタイ福音書 2
章)。イエスが新たな王として君臨する
ことは、ヘロデ王やエルサレムの人々に
とって、既得権益を明け渡すことになっ
たり、安住していた暮らしが変化するか
もしれないという不安を抱かせること
になったからです。というより、彼ら彼
女らはもともと、自分達の地位や安定し
た暮らしがいつどうなるか分からない
という不安を抱えながら生きていたと
いうことでしょう。イエスの誕生の知ら
せは、あくまでも、そういった潜在的な
不安を露わにしたきっかけにすぎませ
ん。一方で、羊飼いや占星術の学者達
は、暗闇の中で輝く光、幼子イエスを発
見した喜びに満たされたことを聖書は

伝えています。神が、イエスの誕生を通して示したかったのはこのことでしょう。何も、ヘロデ王やエルサレムの人々を不安に陥れようとしたのではないのです。なぜなら、「神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためであり、「独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」（ヨハネ福音書 3 章 16～17 節）からです。確かに、幼子イエス・キリストの誕生は、あらゆる立場の人の心に様々な変化をもたらしました。しかしそれはすべて、その人が救われるため、滅びないため、命を得るために引き起こされた変化であるというのが、聖書でいうところの「エルニーニョ」現象です。

ヨハネ福音書は、イエスの誕生を、私

たちの内に宿る「言^{ことば}」の誕生として表現しています。そして、その「言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。光は暗闇の中で輝いている。」（1 章 4～5 節）と捉えています。この世に誕生したイエスの数々の言葉…それらは、私たちの都合に関係なく、時に厳しく、時に慰めをもって迫ってきます。自己過信に陥って大切なことが見えなくなっている暗闇に、自分に望みを置くことができず先が見えなくなっている暗闇に、光を照らします。羊飼いだ達が、幼子イエス・キリストを「探し当てた」（ルカ福音書 2:16）ように、私たちがクリスマスの期間、この一年を振り返りながら、聖書のなかに、自分の心の暗闇を照らしている主イエスの言葉を探し当てたいものです。

～私の好きな聖書のことば



✠✠ 川村 有美子さん ✠✠

「人は心に自分の道を考え計る。しかし、その歩みを導く者は主である。（箴言 16 章 9 節）」

今年の夏、長女は東日本ユースキャンプに参加させて頂きました。理由があって、ぎりぎりまで参加を決めることができなかつたり、現地集合（奥多摩）だった為、一人で電車を乗り継いで行かなければならないなど、不安の多いスタートでした。

しかし、その不安はキャンプが始まってすぐに消え、素晴らしい出会いと様々な体験を通して、充実した4日間を過ごせたようでした。

キャンプの数日前、望月（達）先生より「このキャンプで、何かしらを感じて帰ってこられると思いますよ。」と声をかけて頂きました。“本当にそうならばいいけれど…”とその時には正直、期待よりも心配な気持ちが上回っていましたが、キャンプ後の娘の様子を見て、先生のおっしゃった「何かしら」が、想像していた何十倍も与えられたのではないかと感じています。

たくさんの方々のお支えや、入念な準備を下さったスタッフの皆様のお陰であることはもちろんなのですが、参加できるかわからなかった状況から、終了後の様子までをみていると、導かれたという言葉があてはまるように感じています。

今年のクリスマスで受洗して6年になりますが、クリスチャンとして未熟であることを実感する今日この頃です。高校で毎朝の礼拝や、聖書の授業を楽しみにしている娘と一緒に、聖書の学びを深めていけたらと願っています。

導いて下さる神様を信じて…。

✠✠ 丸山 幸一さん ✠✠

「平和を実現する人々は幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる。」（マタイによる福音書5章9節）

今、この時こそ、このみ言葉を深く心に刻みたいと私は思います。

去る9月15日、多くの国民が反対ないし慎重審議を求めていたにも関わらず、「安保法案」が国会で強行採決されてしまいました。現在、国際社会が大変厳しい状況にあるのは事実ではありますが、しかしながら「力」の行使には、「力」の行使の連鎖があり、より悲惨な状況に進んでしまうのも事実であります。「力」と「力」の対決からは、結局平和は実現できません。現行憲法に則り、まずは海外で戦争はしない、そして地球上から戦争をなくすべく努力するのが日本のとるべき道と思います。

また8月から11月にかけて、その危険性が明白であるにも関わらず、川内原発1号機、2号機（鹿児島）が再稼働してしまいました。かつては「夢」の

エネルギーと言われた原発も、その実態は「悪夢」のエネルギーであり、平和とは程遠い存在であります。国内の原発は全て廃炉とし、当面は火力発電で賄い、その間に再生可能エネルギーの開発・普及を促進すべきと思います。

また、沖縄県名護市辺野古における米軍の新基地建設強行着手も、平和という観点から見逃すことはできません。各種選挙で示された沖縄県民の意思を踏みにじり、強権を背景に基地を建設する中央政府の姿勢こそ「違法」そのものであり、その根底に沖縄に対する差別が内在している事を深く認識すべきであると思います。

以上、最近の情勢から平和に対する私の思いを披露させて頂きました。前述した事柄のみでなく、現在の日本は平和とは程遠い状況にあります。しかし、その様な中でも少しでも「平和を実現する人」と成るべく、祈り、行動していきたい、そんな思いを私は日々強くしているところでございます。

クリスマスクイズ～あなたは何問（難問？）答えられますか？

Q1. イエス様の生まれた「ベツレヘム」は、どういう意味でしょう？

- a、ぶどうの家 b、果物の家 c、お菓子の家 d、パンの家

Q2. イエス様が生まれたとき、日本では何時代だったでしょう？

- a、縄文時代 b、弥生時代 c、古墳時代 d、江戸時代

Q3. 次のクリスマス讃美歌のうち、一番古いものはどれでしょう？

- a、「まきびとひつじを」 b、「もろびとこぞりて」
c、「久しく待ちにし」 d、「きよしこの夜」

~~~~~

A1. d 「パンの家」：ベートが「家」、レヘムが「パン」を意味します。

A2. b 「弥生時代」

A3. c 「久しく待ちにし」：9世紀に東方正教会で作られた詩に、15世紀のフランスのフランシスコ女子修道会で歌われていたメロディーをつけました。

**日本キリスト教団 吾妻教会**（創立 1889 年 5 月 7 日）

〒377-0801 群馬県吾妻郡東吾妻町原町 444-9

主任牧師 望月 達朗

TEL0279-68-4730

<http://www5.ocn.ne.jp/~agatu-ch/>

牧 師 望月 奈津子